巻頭言

「継続は力なり」

NEC プラットフォームズ株式会社　営業事業本部 営業推進本部
スマートアクセスソリューション営業推進部　シニアエキスパート　藤井　慶太

この度、防犯設ジャーナルの巻頭言執筆依頼を受け、不肖ながら筆を執ることとなりました。巻頭言は今回で3回目となり、既にネタが尽きた感がありますが、最後のネタとして今や私のライフワークとなった剣道を通して実感した「継続は力なり」という格言について触れてみたいと思います。

私と剣道の出会いは小学5年生のある日、幼いころから体が弱く病気がちであった私を心配した父が、父の田舎の屋根裏部屋に仕舞い込んであった剣道具を持ってきたことから始まりました。当時通っていた小学校の体育館で週に数回の稽古でしたが、もともと体力も無く、運動神経も悪く、腕前は遅々として上がらず、ただ、両親が言うには、他の習い事は休んだり止めたりしたが、剣道の稽古だけは休むこともなくせっせと通っていたそうです。

中学校に上がり、当時名門で名高い剣道部に迷いながらも入部し、怖い先生や先輩達に睨まれながら稽古に励みました。腕前は相変わらず下手な方から数人目といったところでしたが、私の中ではいつか皆に通用する面打ちを1本でいいから打てるようになりたいという目標を持ち、日々の稽古に励んでいたという記憶があります。そして、中学2年生も終わりの春休みのある日、本当に突然に、これまで全くできなかった面打ちが誰にでもほとんど一振りで当たる技を打てるようになったのです。そして、部内の勝ち抜き試合で十数人を勝ち抜きレギュラークラス入りを果たしました。小学5年生に剣道を始めて約4年、継続して努力してきた成果、続けてきてよかったと実感した最初の体験でした。

その後、高校、大学とも剣道部に所属し、社会人になるまで剣道を続けましたが、24歳のころアキレス腱を切ったことを機に剣を置き、私の剣道とのかかわりは一旦途切れてしまいました。それから30年が経った5年ほど前、小学生の長男が剣道を習いたいと言い出したため、私も剣道を再開することにしました。まず当たり前ですが直面したのは、すぐに息が切れる、竹刀が重くて振れない、体が思うように動かない、更には、腕や足の筋肉を痛めてしまうなど体力と気力の衰えでした。また、大学時代の剣道部のOB会や稽古会に参加してみると、剣道を続けていた当時の私から見れば大変失礼ながら格下であった同輩や後輩が、腕前もさることながら段位も6段、7段といった大先生になっているという現実でした。私も剣道を続けていればそのようになれたのか?はわかりませんが、この30年の間に継続して努力することを怠っていたことを実感し後悔することになり、今後はライフワークとして継続していくことを決めた次第です。

この剣道に関わる2つの体験を通して、継続して努力を続けることで成し遂げられる成果と喜び、怠ったための結果と後悔の両方、正に「継続は力なり」という格言を私なりに実感することができました。

継続といえば、私が日防設の活動に参加させていただいて10年ほどが経ちました。この間に運営幹事会や各種委員会活動などへの参加を通して協会の設立当初から30年間の活動の歴史を学ばせていただく機会を得ました。協会の活動に参加された多くの方々が、長年に渡り安全安心な社会に向けて弛まぬ努力を継続されてきたことに本当に頭が下がります。残念ながら私は今年度一杯で定年退職を迎え、協会活動への継続参加も終えてしまうことになりますが、今後も協会に参加されていかれる多くの方々により、安全安心な社会に向けた活動が継続されていくことで、大いなる社会貢献が成し遂げられていくことを祈念し私の巻頭言を〆させていただきたいと考えます。